

日本インターンシップ学会九州支部 第31回研究会

往還の実践とその相対化—越境学習の視点から—

日本インターンシップ学会九州支部は、これまでの研究会を通じて産・官・学から多くの方々にご参加いただき、インターンシップに関する課題意識と研究成果や今後の方向性について有意義な議論・情報交換を行って参りました。

第31回研究会は、実践者の学びに焦点をあて、自身の居場所を相対化する方法としての越境学習をテーマに、異なる場所との往還による学びの効用を検討します。越境学習が職業統合的学習（WIL）における経験からの学びにどのように活用できるのか、インターンシップ・職業統合的学習（WIL）の可能性を皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

会員・非会員どなたでも参加できます。多くの方のご参加をお待ちしております。

日本インターンシップ学会 九州支部長 眞鍋 和博（北九州市立大学 教授）

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 開催概要 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

■日 時：2024年1月29日(月) 19:00~21:00 (受付 18:30)

■会 場：オンライン (Zoom)

■企画趣旨：越境学習とは、石山・伊達（2022）の定義で説明するならば「境界を越えて学ぶ」こと、この「境界」とは「個人にとってのホームとアウェイの間にある境界」です。つまり、自分の所属する組織やコミュニティを越え、往還することで自身を相対化する学びが越境学習です。2023年3月31日以降に終了する事業年度に係る有価証券報告書から、人的資本に関する項目の記載が必須になりました。リスクリングやリカレントなど人的資本形成にかかる用語に注目が集まるようになりました。アフターコロナを見据え、VUCA時代と呼ばれる昨今、変化の激しい時代に対応できる人材育成方法の一つとして、越境学習が注目されるようになりました。2018年頃から経済産業省も「未来の教室」事業として、「越境学習によるVUCA時代の企業人材育成」というテーマに取り組んでいます。そこで今回は、企業等を中心に越境学習のコーディネートを担当している日本能率協会マネジメントセンターの石井敏弘氏をゲストに迎え、越境学習の概要や実情について報告いただいた後、越境学習の実践事例を2件（教員と学生の往還事例、会社間での交換留学の事例）を報告いただきます。そして、パネルディスカッションでは、越境学習の学びがインターンシップや職業統合的学習（WIL）に活用できるかを報告者とともに皆様と一緒に総合的な議論ができれば幸いです。

■プログラム（予定） 趣旨説明 江藤 智佐子 会員（久留米大学 教授）

報告① 越境学習コーディネーター

「『地域』と『企業』を『学び』でつなぐ、JMAMの越境学習」

石井 敏弘氏（株日本能率協会マネジメントセンター 越境ラーニングセンター長）

報告② 社会人留学による越境学習の事例

「教員から学生、日本から英国、2つの越境経験からの視座」

眞鍋 和博 会員（北九州市立大学 教授）

報告③ 企業における越境学習の事例

「企業間の社員交換留学」

高橋 康徳氏（株カウテレビジョン 代表取締役）

パネルディスカッション

ディスカサント 平尾 元彦 会員（山口大学 教授）

■参加費： 無料（非会員も無料）

■申込方法： Google フォーム（URL または QR コード）から事前にお申し込みください。

参加申込フォーム：<https://forms.gle/T5Xm58Z8zGUrtWf68>

■申込締切： 2024年1月26日（金）

*オンライン（Zoom）参加者には、前日にご指定いただいたアドレスにミーティングID、パスコードを連絡いたします。

■問合せ先：日本インターンシップ学会九州支部事務局 e-mail jsikyushujimu@gmail.com

